様式第３号

令和４年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	61	学 校 名	静岡県立小笠高等学校	校 長 名	堀之内　育子

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	基本的生活習慣の確立と社会性の育成	・挨拶、時間、服装の習慣化とマナー向上を心掛けた生徒90%以上 ・不注意遅刻の生徒　月10人以下 ・提出物を期限内に提出する生徒 90%以上	・学校アンケートより、マナー向上、不注意遅刻、提出物のすべてにおいて９５％以上の肯定回答である ・提出物を期限内に提出できている生徒95.9%	A	・校内における挨拶、時間、服装のマナー向上では整っているが、校外でのマナーが今後の課題である ・担任や教科の声掛けもあり、提出物についてはほとんどの生徒が期限内提出をできた
		・交通事故・違反数　年間10件以内 ・自転車の未施錠数　一日10台以下	交通事故件数は１件、違反件数は５９件であった	B	交通事故件数は少ないが、違反件数が毎年多いので、交通マナーに対するの意識付けをさせていきたい
イ	安全で安心できる学校生活の確保	・校内防災訓練及び防災教育を計画的に行っている。 ・防災倉庫点検を２か月に１回行っている。 ・地域防災訓練への参加率 90%以上	・防災訓練の計画的実施ができた。 ・防災倉庫の点検を行った。 ・地域防砂訓練への参加率は45.4%となり、目標達成とはならなかった	B	・コロナの時代に対応した有効な防災対応を今後推進したい。 ・防災設備、器具の充実を図りたい。 ・地域防災訓練を実施しない地区や地区ごとに日程が異なるため、調整や対策の検討が必要である。また、部活動との兼ね合いも考慮したい
		・人権意識の視点に立った教育を適切に行っている職員90%以上	・「人権尊重の精神に基づいた教育活動を行っている。」と回答した教職員の割合は 92.8%であり、昨年度より人権意識の視点に立って教育活動を行うことができた	A	・今後も研修案内や関連機関から提供された資料を PC掲示板で共有したり、職員会議で伝達研修を実施したりして、教職員の人権意識の更なる向上に努める
		・必要なケース会議を迅速に実施している。 ・相談しやすい雰囲気が整っていると思う生徒80%以上	・目標の80%は越えなかったが、「相談が必要」で「緊急性が高い」生徒に対して手厚く指導している。 ・アンケート、ケース会議を実施し、早期かつ継続的支援を行った ・相談しやすいと感じ	B	・定期的にカウンセリングに来る生徒は心の平穏が得られている。今後も各教員、保護者と連携し、様々な視点から生徒への支援をしていく。 ・必要なケース会議を開催できる時間の確保が必要。 ・カウンセラー視点から見た生徒の様子、生徒への対応の

			る生徒は 75.7%であった。未達である ・担任、保健室、相談室が連携しケース会議や連絡・報告・相談が日常的に行えた。 生徒評価は 75.7%であり、目標にやや届かなかった ・問題を抱えた生徒の情報を共有し、組織的に対応した ・75.7%で未達成		仕方を学べたら良い。 ・生徒や保護者の要望、期待や必要性が高まっている表れかもしれないので、スクールカウンセセラーなどを活用する機会を増やしても良いかもしれない ・教員側から生徒への声掛け等、話しやすい環境づくりが必要である ・生徒アンケートも行っており生徒に寄り添ったサポートができている。今後は進路面の相談もしやすい環境を整えたい ・レアケースや人間関係の修復ができない悩みを抱える生徒がおり、解決が難しい場合があった
		・ごみの分別・削減を心掛けている生徒　90％以上	・生徒の意識は高く、目標達成できた （97.5%）　（保健）	A	・倉庫やロッカーなどを整理し、有効活用できるようにした ・コロナ禍のこともあり、この様な生活が身についてきた。この状態を継続できるよう、声掛けを継続する ・清掃がない日が続くとゴミが目立つので、朝や帰りの SHR などで簡易清掃するなど校内美化について検討が必要
ウ	基礎学力の定着と主体的な学びの実現	・授業に主体的に取り組んでいる生徒 80%以上 ・家庭学習に取り組む生徒 75%以上 ・検討結果を関係教員と共有し学習指導の改善に役立てている。	・97.8%（+3.8%） ・76.6%(+2.3%) ・進学検討会、面談等への情報提供等の実施により概ね達成できている	A	・ほとんどの生徒が主体的に学んでいる自覚を持てている ・進学検討会で検討する生徒の精選。担任に提供する進路関連情報内容の精選
		・授業に満足している生徒 80%以上 ・授業評価の結果を活用する教員 80%以上	・90%(+2.7%) ・98.2%	A	９割の生徒が授業に満足している。より一層「わかる・面白い授業を展開したい」
		・朝読書の実施により、落ち着いて学校生活をスタートする ことができた生徒 90％以上	・90.6％で目標を達成できた。前年比については、質問内容を変えたため比較できない	A	・朝読書の時間が学校生活を落ち着いてスタートさせるための時間となるよう担任と連携し指導を徹底する
		・各年次の探究的な学習における満足度 70％	・２年次 88.3%(+6.1%) ・３年次 90.8%(+12.2%)	A	・生徒の興味関心に応じた指導をしてくれた

		以上 ・「課題研究発表会」の成果発表に対する生徒の肯定的評価　平均80%以上	・１年次の進路探求は満足度96.5%であった ・生徒の満足度は、88.3％で前年度比で6.1%向上し、良い評価となった ・茶文化探究への満足度は90.8%と高かった ・「国語探究の時間に取り組んだ自分の探究活動に満足している」と答えた生徒83%で、目標は概ね達成できた ・３年次「地理歴史探究」では、２年次「世界史Ｂ」「日本史Ｂ」の知識をもとに、地域の歴史について調査研究を行った ・３年次数学探究では選択者３名がそれぞれ満足する取り組みを年間通じて行うことができた ・「理科課題研究」では、２年次までの知識をもとにテーマを設定して実験や調査・研究を行い、探究的な学習における満足度70%以上達成した ・地域探究の生徒の満足度は88%、課題研究の成果に対する満足度は88%であり、目標を達成することができた ・「課題研究」において研究した内容において農業クラブｙプロジェクト発表県大会にて２部門で優秀賞にはいるなど成果を修めた ・「課題研究」など、特に実技を伴う科目で実践できた ・「ビジネスリーダー育成セミナー」に参加した ・「福祉探究の時間に取り組んだ自分の探究活		・地域探究の学習成果発表会を実施し、優秀な発表を菊川市まちづくりプレゼン大会で発表できた。（産社、課研も同様） ・茶文化探究では担当教諭、教務課などによる指導を年次の廊下に成果物として掲示した。活動内容が共有できてよかった ・外国人生徒への日本語指導、読書推進活動、各研究における実地聞き取り調査など、外部と交流する活動を取り入れたい １・２年次の授業でも探究的な授業を取り入れたい ・年度を超えて継続的に探究活動に取り組む仕組みを作る ・地域探究では、芸術活動の視点からテーマ設定を行う生徒がいた。また、課題研究では研究テーマをもとに、情報収集や探究内容を仲間と共有しながら課題に取り組み、まとめることができた ・自ら立てたテーマに対して、個人やグループで取り組むことができた。それに対する評価方法については、検討を続ける必要はある ・探究活動の成果を中学生体験入学や総合学科大会、課題研究発表会で発表することを目標に意欲的に活動することができた

			動に満足している」と答えた生徒 100%		
エ	**体系的なキャリア教育と進路指導の充実**	・「産業社会と人間」「進路探究」の満足度 80%以上 ・１、２年次企業説明会の満足度 80%以上 ・インターンシップ参加者 40 人以上	・達成できている ・「産社・進路探究」満足度 96.5%(-0.1%) ・満足度 96.5%（昨年度より 0.1%減）非常に高い満足度である ・企業説明会の満足度は 94.6%で目標を達成できている ・参加者は 11 人で達成できなかった ・インターンシップ参加者は11人に留まった	A	・今年度の反省を踏まえて更なる改善に取り組むこと ・招聘企業等の精選を継続すること ・経済活動の回復を祈念すること・今年度の反省を踏まえて更なる改善に取り組むこと ・自分の将来を見据え、想像しながら授業ができた ・インターンシップはコロナの影響で受け入れ企業の減少や直前でのキャンセルが続いてる。貴重な機会なので 1 年次からアナウンスし生徒の意識を高め参加率向上を図りたい
		・就職希望者の一次募集での内定率　80%以上 ・内定した企業に対する満足度 90%以上	・達成できた ・達成できた	A	・担任及び月 7 指導を更に洗練させること。 ・事前の企業調査等を強化してミスマッチを低減させること。 ・内定満足度は 98.6%で、生徒の希望を叶える結果が大半だった
		・進学希望者の第一志望達成 80%以上 ・検討会や会議において必要な情報を関係職員が共有し、進学指導に活用いる。して	・達成できた ・進学検討会、面談等への情報提供等の実施により概ね達成できた ・情報共有は十分にできている ・スタディサポートや校内の成績をもとに進路検討会を各年次２回行った。年次会議でも生徒情報を共有した	A	・担任や年次への適切な進路情報提供を継続する ・担任や年次への提供情報内容や提供手段を見直し、効果上昇を図ること ・第 1 志望達成度は 91.6%だった。 ・検討会、会議などで情報共有ができ、担任と生徒が進路に向けた活動を連携してできた ・年次通信でも 3 年次の進路状況を生徒・保護者に毎回発信できた ・進路検討会では他年次職員や進路課員の参加があり、有益な情報を共有できた。担任はそれ生徒へ発信することができた

オ	特別活動と課外活動の活性化	・文化祭や体育大会、ホームルーム活動等に積極的に参加する生徒90%以上	・学校アンケートより、９５％以上の肯定回答である ・肯定的な回答は96.9%であった ・3年振りに修学旅行を実施できた。訪問先への理解や関心、集団行動、平和学習など全ての項目で成長できたと感じた生徒が75%を以上であった ・96.9%で達成した	A	・行事への関心も高く、積極的に取り組んでいると言える ・行事前の準備を通した意識付けを行い、成果のある行事運営を継続したい ・コロナの影響で規模や日程の縮小などがあったが、生徒は熱心に取り組むことができた
		・積極的に取り組む生徒90%以上	・学校アンケートより、９５％以上の肯定回答である	A	各部活動にて生徒の主体性が身についてきている
カ	保護者、地域等との連携と情報共有	・就職模擬面接が効果的であると思うPTA進路委員 90%以上	・保護者アンケートにおいて88.4%となり、目標を達成できなかった ・達成できず	B	・非効果的と判断された項目を分析し改善すること
		・課題研究等の授業、生徒会活動、部活動等の活動において、地域との連携・交流活動を活発に実践している。 ・「小さな収穫祭」の実施。 ・部活動における小中学生との交流の実施。	・野球部、サッカー部、柔道部、女子バレーボール部、陸上部、女子バスケットボール部など多くの部活動で実施している ・課題研究や授業において地域との交流活動は行わなかった ・３年次「地理歴史探究」にて、図書館を利用して研究を進めた ・地域との連携は実践していない ・３年次「理科課題研究」では、中学生一日体験入学で体験発表を行い、地域の中学生に自然科学系列の紹介ができた ・各部活動で、地域や中学生と練習試合や合同練習を通して積極的に交流することができた ・美術部では、市と連携してデザイン制作を行っている。	B	・交流によって小中学生の小笠高校に対する関心が高まっていると思われる ・課題研究での聞き取り調査など、地域と交流する活動を取り入れていきたい ・地域の人へのインタビューや、フィールドワーク等、より地域に関わる活動を取り入れたい 地域の課題から探究テーマを設定する ・各部活動で、地域や中学生と練習試合や合同練習を通して積極的に交流することができた。今後は、裁量枠での受験などに繋げていきたい ・美術部は市と連携し、校外でのデザイン作品展示、商品企画、販売まで進める予定。 ・校外学習から得たことを生かして授業を行うことができた ・テーマ設置時に、様々な研究形態があることを、生徒に投げかける ・「福祉探究」の授業の一環

			・伝統工芸を普及、啓発活動を行っている企業と連携して校外学習を実施した ・科目「課題研究」、「総合実習」、「草花」において地域との交流活動を活発に行うことができた。 科目「食品製造演習」、「課題研究」において小さな収穫祭での展示等に参加した ・今年度は、地域との連携・交流に直接結び付く活動はなかった。しかし、農業系列と共同して間接的に関わることはできた ・「星空観察会」の実施 ・福祉科目の授業の一環として、２・３年次選択者全員が、児童・高齢者・障害者のいずれかの分野で校外活動に取り組み、生徒の満足度は100％であった		として、「小さな収穫祭」に参加し、市内の障害者施設や社会福祉協議会などと連携することができた。また、１・２年次の福祉科目の授業の一環として、児童館の活動に参加した
		・学校ホームページへの記事のアップロード数月平均20本以上	・月平均23件 目標は達成した	A	・各年次・分掌・教科・部活動が記事を掲載することを、継続していく
		・一日体験入学、オープンスクールの参加者の満足度 90％以上	・一日体験入学 91.8％(94.7) ・オープンスクール 93.8％(91.2)	A	・一日体験入学の会場を学校に変更したことで、学校の雰囲気をより伝えることができた
キ	教育環境の整備と事務業務の効率化	・ＩＣＴを活用した授業を行う教員 80％ ・職員の要望を取り入れた図書資料の整備を行っている。	･昨年度に引き続き ICT 機器や各種アプリについての資料を提供している ・91.0％(+1.9％) ・教科からの要望を定期的に集約し、図書資料の充実を図ることができた	A	・ICT 機器を生徒に活用させる研修を行っていくことが課題である ・校内研修を行うことで教員がより一層 ICT を活用することができた ・職員から要望があった図書資料はすべて購入することができた。更に円滑な整備に努める
		・施設・設備の補修、備品等の購入を、優先順位を明確にして的確に行っている	・老朽化により計画外の対応を迫られることもあったが、予算の調整も含め的確に処理できた	B	・光熱水費の高騰等により経営予算が圧迫され、先の見通せない状況が続いているが、限られた予算の範囲内で学校運営に支障のない予算執行に努める

様式第３号

ク	職員の勤務状況の推進	・業務を精選・整理した分掌等 90% ・校内研修の内容満足度85%以上	・79.3% ・年次会議の効率化、時間短縮 ・80.4%で未達成。概ね満足している ・できる限り回覧で済ませ、会議を必要最小限とした ・回覧による情報共有をこまめに行い、教科会議の回数を減らした ・回覧による情報共有を有効活用し、評価などの重要案件以外では会議を行わないこととした ・科内において回覧を頻繁に行うことで、情報共有ができた ・新課程に伴い、評価の観点を非常勤講師も含めて共有した ・圃場運営を見直し、科目「農業と環境」において作目を精選し、年度当初の業務のスリム化できた ・検定業務の整理・分担が進んだ ・小論・面接指導を計画的に行い、３年次生の進路を実現させることができた ・校内研修会の事後アンケートにおいて「研修会は充実していて満足している。」と回答した教職員の割合は第１回が 100%、第２回が93%であった	B	・職員全体で共有しやすい事前の会議資料作り・他年次との生徒情報共有連携も ・年次黒板の情報量を減らし、スリム化を心掛けたい ・例年並みの活動を継続するためには、業務カットが難しい。アンケートなどはグーグルフォームにより集計作業が効率化した ・観点別評価に応じて業務が大幅に増えたので、効果的で効率的な評価の方法を検討していく必要がある ・観点別評価の実施に伴い、統一の評価基準を求める必要が出たため、適宜教科担当間で調整する必要が出た ・評価時に使用する芸術科専用のデータベースを作成し運用している ・小論・面接指導を休み時間や放課後、夏休みを使って効率よく実施できた ・来年度も教職員の要望を踏まえた研修を企画し、満足度の高い研修を継続して行っていく
		・各自で設定した定時退勤日を概ね実践している職員　80%以上	・60.3%　　（全職員）	C	・職員への声掛け等の配慮が足りなかった。